

2 学年通信

新宮町立新宮東中学校
令和7年10月8日 第55号
文責：江頭 俊輔

〔五感で味わおう！～嵐山にて～〕

前回は食品ロスについてお伝えしました。食品ロスは今後も私たちにとって身近で、なおかつ世界的な問題なので、一人一人が「あと一口！」を意識して食事をしましょう。

今回は五感で味わう大切さについて伝えたいと思います。**五感とは、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の5つの感覚のことで、私たちはこの五感をもとに世界を認識しています。**「そんなの分かっている！」と14歳のみなさんから声が聞こえてきそうですが、なかなか五感で身近な世界を味わうことは難しいです。さて、質問です。みなさんは京都での研修で、どれくらい五感を使って京都を味わいましたか？

時間があったら、是非、次の表に書いてみてください！

京都で見たもの	京都で聞いた音	京都で触った感触
京都で嗅いだ匂い	京都で食した味	

いっぱい書けましたか？五感の中で忘れやすい順番があるらしく、聴覚→視覚→触覚→味覚→嗅覚の順序だそうです。（諸説あります。）上の表を見て、聴いた音は鮮明に覚えていたか確認しましょう。

私がなぜ、五感の話をしているかというと、**現代ではあまり五感に頼らない生活様式になってきているのではないかと危機感を抱いているからです。**現代では、SNS が普及し、写真や動画を通した情報が増え、自然が奏でる音の風情を見逃しがちではありませんか？例えば、渡月橋（嵐山で学級の集合写真を撮った橋）で、みなさんは何を思ったでしょうか？（近くの人と交流してみよう！）

私は、本部待機ということもあり、校長先生と二人で渡月橋近くのベンチに150分座っていました。飽きることなくお話をしながら、ずっと渡月橋を見続けることができたのは、やはり風景と川の音、近くで聞こえてくる日本語以外の言語、風が肌に当たる感覚、そのどれもが「（江頭の思い描く）京都」を感じさせ続けたからです。（みなさんは楽しそうにいろいろなものを食べていましたね。写真で見ましたよ。）もし、もう一度、京都に行く機会があれば、じっくりと五感で街並みや情緒を味わってほしいです。

〔五感で味わえるのは、余裕があるときだけ！暇を作ろう！（俳句を作ろう！）〕

とはいえ、なかなか五感で味わうのは簡単ではありません。ポイントは「余裕」です。目を凝らしたり、耳を澄ましたり、忙しい毎日の中では難しいことです。だからこそ、意図的に行うことで人生は彩り多いものになります。**【自分が認識できる世界こそが、自分の世界だ】とは、私が日頃、思っていることです。**認識できる幅を広げることで、世界はもっと広がります。どうせ生きるなら、大きな世界で生きた方がいいじゃないですか！認識を広げる上でとても有効だと思ったのは、俳句を作ることです。（プレバトで有名ですね！）俳句にはいくつかのルールがあります。**（詳しくは国語科の菊池先生に聞いてみてください！）**

私は教師3年目までの間、当時の学年主任である濱田先生（私はこの先生を【神様】だと思っています。）の勧めで、毎週2句、俳句を作っていました。俳句を作っていくとその奥深さと難しさに頭が混乱します。でもこの混乱が素敵なんです。日常のどの場面をどの目線で、どのように、どの季語を17音のどこに入れながら俳句を作るか、この混乱を味わってほしいです。是非、菊池先生にお願いして俳句を作ってみましょう！

